

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
総括研究報告書（令和5年度）

子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究  
研究代表者 慶應義塾大学・医学部・名誉教授 青木大輔

研究要旨

HPV 検査を用いた子宮頸がん検診について地域保健健康増進事業を中心とする対策型検診での実際のアルゴリズムと運用、さらに導入条件を、厚生労働省からの要望により、得られた学術的見解に基づく範囲でがん検診のあり方に関する検討会に示す体を暫定的に作成し、検討の布石とすることを目的とした。

HPV 検査を用いた検診アルゴリズムについての網羅的文献調査を行ない、実際に実施されている検査方法の体系的把握を行った。続いて HPV 検査による検診で、最も鍵となるトリアージ精検受診率確保の必要性と対応策を検討するために、わが国の地域保健健康増進事業報告での、既存の子宮頸がん検診の精検受診率の把握を行い、また精検受診率のために有効とされている対策で導入すべきものを検討した。これらを踏まえてわが国の現状を踏まえた HPV 検査単独による子宮頸がん検診のフローを「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版」の記述との整合性をとりながらデザインした。

また、検診事業のフローのデザインをアルゴリズムの形にし、それを実行するための「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」（案）の策定をした。

網羅的文献検索により、HPV 検査を用いる子宮頸がん検診のフローは様々である反面、検診方法を HPV 単独法とする場合、最も汎用されているトリアージの検査は細胞診単独であり、さらに追跡精検に用いられるのは HPV 検査単独法であることが判明した。また、このフローは HPV 検査単独法検診の中では比較的シンプルであり、わが国で最も実施の実現が近いと思われるものであった。また過去のデータと比較しつつ精検受診率を最も高くするための検体採取方法・検査方法としては医師採取液状化検体を用いた HPV 検査とその残余検体を用いた液状化細胞診によるトリアージであった。これらに有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版の要件を加味してアルゴリズムを策定し、さらにはそのアルゴリズムを実施するための「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」（案）を策定し、がん検診のあり方に関する検討会に供した。

今後は今回提示したアルゴリズムおよび「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」によるデザイン・パイロット的な、運用の実効性、プログラムとしての安全性を確認しつつ行う HPV 検査単独法検診が徐々に展開されると予想される。

**研究分担者氏名 ・ 所属研究機関名及び所属研究機関における職名**

|        |                                                    |
|--------|----------------------------------------------------|
| 八重樫 伸生 | ・ 国立大学法人 東北大学・大学院医学系研究科・客員教授                       |
| 藤井 多久磨 | ・ 藤田医科大学・医学部 婦人科学・教授                               |
| 宮城 悦子  | ・ 横浜市立大学・大学院医学研究科 生殖生育病態医学・教授                      |
| 中山 富雄  | ・ 国立がん研究センター・がん対策研究所 検診研究部・部長                      |
| 齊藤 英子  | ・ 国際医療福祉大学三田病院・予防医学センター・講師                         |
| 森定 徹   | ・ 杏林大学・医学部 産科婦人科学教室・准教授                            |
| 高橋 宏和  | ・ 国立がん研究センター・がん対策研究所 検診研究部・研究員                     |
| 戸澤 晃子  | ・ 聖マリアンナ医科大学・医学部産婦人科・教授                            |
| 雑賀 公美子 | ・ JA 長野厚生連 佐久総合病院・佐久医療センター 総合医療情報センター・<br>医療情報分析室長 |
| 黒川 哲司  | ・ 福井県済生会病院・産婦人科・部長                                 |
| 上田 豊   | ・ 大阪大学・大学院医学系研究科・講師                                |

## A. 研究目的

＜研究全体の目的＞ わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法は「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（指針）に基づき子宮頸部細胞診が採用されている。近年、細胞診に比較してより感度の高い HPV 検査を用いた検診を対策型検診として導入した国も存在する。しかし、がん検診を取り巻く環境や検診の精度管理状況は国によって異なるため、精度管理体制が十分とは言えないわが国で HPV 検査を用いた検診が検診としての効果が上げられる保障はない。また、わが国の地域住民検診の内容の決定には「科学的根拠に基づくがん検診ガイドラインでの推奨」に加え、厚生労働省の命を受けて組織される「がん検診のあり方に関する検討会」において対象年齢や検診間隔、アルゴリズムなどの実際の運用方法を決定するという過程を経る必要がある。そこで本研究は、「がん検診のあり方に関する検討会」にて実際の運用を決める際の参考となる学術的見解を示すことを目的とする。

2022 年（令和 4 年）度 HPV 検査の導入によって生じるリスク保持者に対する追跡管理方法について文献・公表物を含めた検討や、HPV 検診の導入に必要なインフラとして、液状化検体細胞診、液状化 HPV 検査を実施できるキャパシティの情報の調査を実施した。2023 年（令和 5 年）度は 2022 年度の研究を継続し、さらに次年度（令和 6 年度）の実施予定であった HPV 検査を用いた子宮頸がん検診について地域保健健康増進事業を中心とする対策型検診での実際のアルゴリズムと運用、さらに導入条件を、厚生労働省からの要望により、これまで得られた学術的見解に基づいた範囲でがん検診のあり方に関する検討会に示す体を暫定的に作成し、検討の布石とすることを目的とした。

## B. 研究方法

### I. HPV 検査を用いた検診アルゴリズムについての網羅的文献調査

子宮頸がん検診のアルゴリズムについての記載が想定される論文を、2010 年—2022 年 1 月に公表された論文を対象に Key word を用いて網羅的にリストアップした。次にリストアップされた論文の抄録をダブルチェックにて吟味して、アルゴリズムと無関係と判断できる論文を除外した。残った候補論文を個々に通読し、アルゴリズムの記載の有無を確認した。記載されていたアルゴリズムのパターンを、検診の検査法、トリアージの検査法、検診陽性かつトリアージ陰性者を追跡して行う検査法（追跡精検）のそれぞれが、いずれの検査法で行われているかを集計した。

## II. トリアージ精検受診率確保の必要性と対応策の検討

がん検診での効果を上げるためには高い精検受診率を確保することが不可欠である。HPV 検査単独法の場合、第 1 番目に実施する精密検査であるトリアージ検査（トリアージ精検）の受診率が担保されない場合、それ以後の診断確定のためのコルポスコープ下狙い組織診（確定精検）や追跡精検の受診率も自ずから低いものにならざるを得ない。そこで、現行での検診受診率についてのデータの確認を行い、またトリアージ精検を要する場合の受診率を文献的に検討した。さらにトリアージ精検受診率向上のための手立てを検討しつつ、望むべき受診率の提案を試みた。

## III. わが国の現状を踏まえた HPV 検査単独による子宮頸がん検診のデザインフローの検討

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版」の記述と上記 I.II. の検討結果から HPV 検査単独による子宮頸がん検診のデザインフローを検討した。

## IV. 「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」（案）の策定

I.~III. の結果についての、がん検診のあり方についての検討会での議論、および厚生労働省の指示により、地域住民検診に限らず、対策型検診に HPV 検査単独法を導入する場合の最低限必要な要件や実際に実施すべきことについてのマニュアル（案）を策定した。またその案を、がん検診のあり方についての検討会に提出した。

（倫理面への配慮）

本研究は主に文献収集および地方自治体等を対象にした調査であり、個人への介入は行わない。人体から採取された資料は用いないため、倫理上、特に問題は発生しない。

## C. 研究結果

### I. HPV 検査を用いた検診アルゴリズムについての網羅的文献調査

子宮頸がん検診のアルゴリズムは CIN3 以上の発生率についての文献候補を key word にてリストアップしたところ、673 文献が候補として上がった。その中からアルゴリズムが確認できたものは 56 文献で、87 のアルゴリズムが検出された。図 1 に示すように、87 アルゴリズム、検診手法として最も多かったのは high risk HPV 検査（以下 HPV 検査）単独法の 57 アルゴリズムであり、HPV 検査+細胞診の同時併用法は 11 アルゴリズムに留まった。さらに、HPV 検査単独法 57のうち、トリアージ方法でもっとも多かったのは細胞診の 48 アルゴリズム（84%）であった。

また、HPV 検査単独+細胞診トリアージで HPV 陽性かつ細胞診 NILM の症例はリスク保持者としての管理が必要であり、その管理のために時間を

あけて追跡的に行う精密検査である追跡精検の方法で最も多かったのは HPV 検査単独法の 27 アルゴリズム (56%) であった。

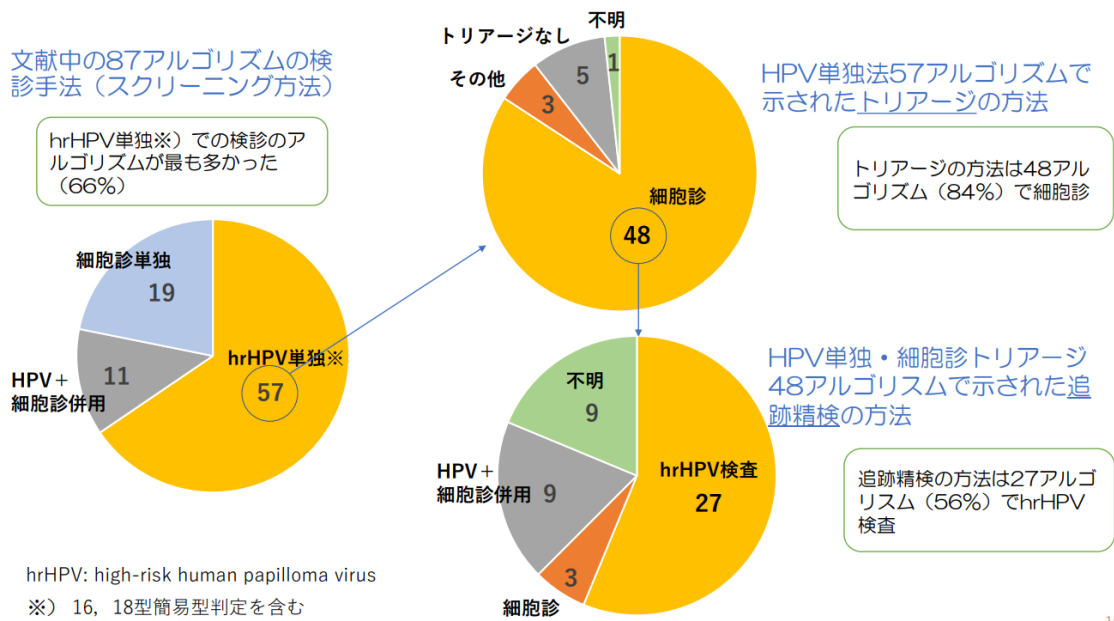


図1. 第38回がん検診のあり方に関する検討会 (青木参考人提出資料)

以上の検討から、文献にて示されている現時点で最も頻度の高いアルゴリズムは、

- ・ 検診の検査方法：HPV 検査単独
- ↓
- ・ トリアージ検査方法：細胞診単独
- ↓
- ・ 追跡精検の検査方法：HPV 検査単独

であった。

## II. トリアージ精検受診率確保の必要性と対応策の検討

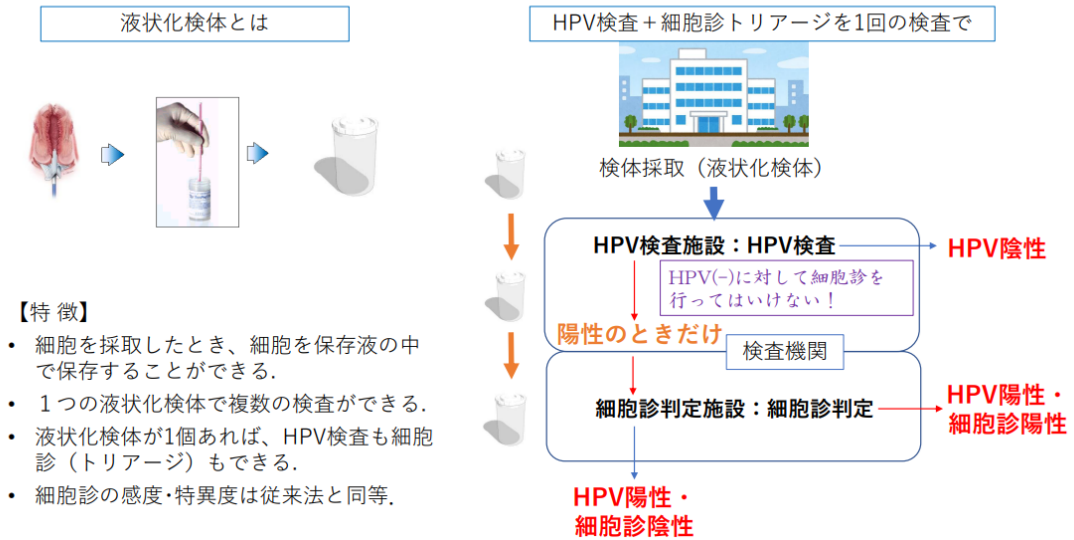
地域保健健康増進事業報告による、現行の細胞診単独での子宮頸がん検診での精密検査受診率は2014年度実施検診では73%であったものが年々改善し、2022年度実施検診では78%程度に到達していた。また本邦で行った HPV 検査+細胞診併用の有効性評価研究やカナダでの HPV 検査単独法で、要トリアージ精検となった者の精検受診率はいずれも50%程度に留まっていた。わが国で HPV 単独法を導入する場合、トリアージ精検は最低でも78%を超え、限りなく100%に近づける体制構築をとる必要がある。

精密検査受診率向上の手段を検討した結果、検診受診の際対象者全員に精密検査の意義と必要性

を文書で説明すること、未受診者の把握とリコールなどの手法に加え、HPV 単独法による検診に対するトリアージでは、検診時に液状化検体を用いた検体採取を行うことで、トリアージ精検を対象者の再受診なしで実施することが可能であり、他国で実施されている。この液状化検体での検体採取は、精密検査受診率向上の手立てとしては理論上100%受診も見込める。

以上より、図2に示すように液状化検体を用いた liquid-based HPV 検査 (L-HPV) による検診と、その残余検体を用いたトリアージ検査としての liquid-based cytology (LBC) による細胞診の仕組みを整理し、がん検診のあり方に関する検討会の検討資料として提出した。

## 対応策：HPV検査陽性の検体で細胞診を実施する —液状化検体による検体採取—



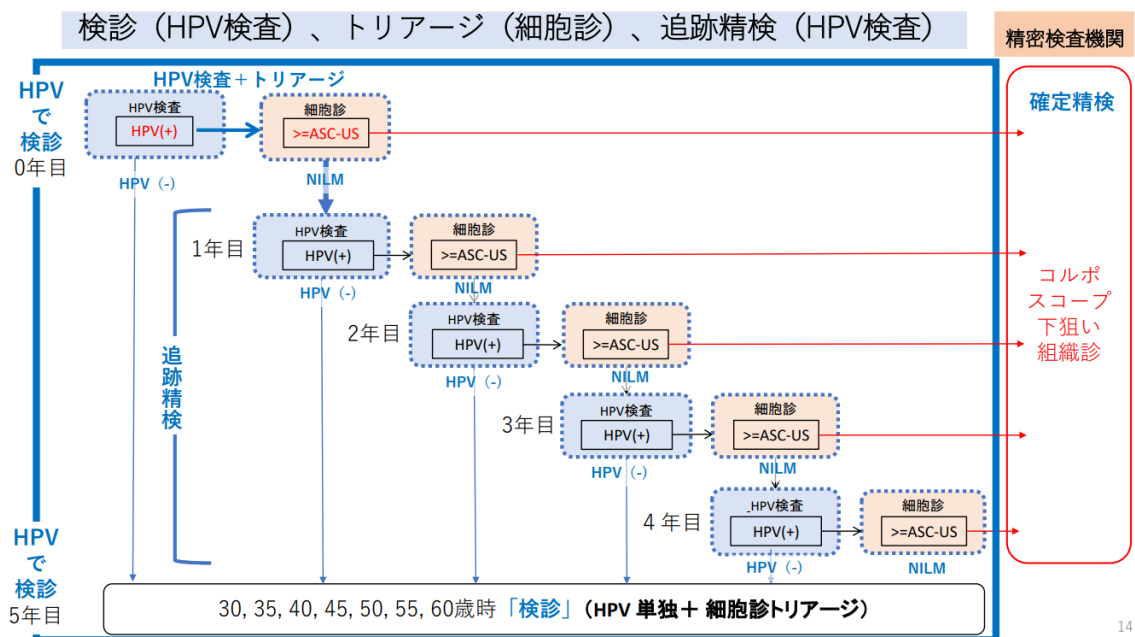
15

図2. 第38回がん検診のあり方に関する検討会（青木参考人提出資料）

### III. わが国の現状を踏まえた HPV 検査単独による子宮頸がん検診のデザインフローの検討

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版」の、30-60 歳対象、5 年に 1 回、HPV 検査単独法でトリアージ検査を行うという記

述に基づき、また上記 I, II の結果よりがん検診のあり方に関する検討会にて協議すべき HPV 検査単独での子宮頸がん検診のフローを下記のようにデザインした。



14

図3. 第38回がん検診のあり方に関する検討会（青木参考人提出資料）

### IV. 「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」(案) の策定

まず、地域住民検診に限らず、職域等を含め全ての対策型検診を念頭においた「対策型検診における HPV 単独法による子宮頸がん検診実施マニュアル」第1部を作成した。

内容は、がん検診の目的および検診と診療の違いといった総論を記した上で、子宮頸がん検診としての HPV 検査の科学的根拠を詳細に記載した。そのうえで HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の実施の概要を示し、その中にアルゴリズムのフローチャートを掲載した。続いて HPV 検査に

よる子宮頸がん検診を実施するための実施主体の体制、および検体を採取する機関/HPV・細胞診判定機関の体制整備（検査試薬、判定等）を説明した。後者にはわが国で現在使用可能な検査試薬等も掲載した。

続いて実際の運用として、HPV 検査による子宮頸がん検診を始める前に受診者に対して説明すべきことと、確認する事項、HPV 検査による子宮頸がん検診の実施手順：検体採取、HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の実施手順：結果判定と実施主体への結果報告、実施主体から受診者への結果通知、実施主体から受診者への結果通知、追跡精検（検診から 1 年後の HPV 検査）の実施について掲載した。

最後に、精度管理上最も重要である HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の精度管理評価についての章を設け、この第 1 部で対策型検診に HPV 検査単独法を導入できるか否かの検診事業提供者の判断を助け、また実際に運用する場合のバイブルとなる仕立てとした。（別添資料）

さらに、厚生労働省の要望にて地域住民健康増進事業で実施のための、いくつかの読み替えに対応する第 2 部を、厚生労働省と共同責任で執筆した。

（別添資料）

第 1 部と第 2 部とをがん検診のあり方に関する検討会の討議資料として提出した。

また、令和 6 年度から開始予定の自治体（横浜市、志木市、和光市）に対して、対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアルに沿った内容で「令和 5 年度 HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の導入に向けた精度管理支援研修会」を開催した。

#### D. 考察

2019 年版の有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドラインで、細胞診単独法とならんで HPV 検査単独法が推奨された際に、HPV 検査単独法をわが国に導入するための必須要件としてわが国で統一された検診結果毎の診断アルゴリズムの構築が記載された。厚生労働省の班研究として当研究班はアルゴリズムの提案のための科学的な検索と最終的な提案を命題として研究を行ってきた。2023 年度は厚生労働省の要請にて暫定的にはあれ、アルゴリズムとその実施のための「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」（案）を提出し、がん検診のあり方に関する検討会の俎上に載せたことは大きな前進である。その一方、本来今年度の課題であった、種々のアルゴリズムごとの CIN3+減少効果を指標とした評価研究等が、急遽求められた「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」（案）策定による時間的、人的資源的要

因で達成しえなかったことも付記しておく。CIN3+の減少効果の有無は、アルゴリズム選択において重要な因子であることから、令和 6 年（2024 年）度に引き続き検討し、アルゴリズム変更の必要性の有無について、がん検診のあり方に関する検討会での参考資料とする予定である。

また、がん検診のあり方検討会の議論でも、新たな検診手法の導入においてはデザイン・パイロットの実施が今日必須になっていることが委員の意見として公開されており、それなしの住民検診への導入ががん検診のあり方に関する検討会で承認された形跡がない。今回提示したアルゴリズムは、これまで HPV 単独検診を導入した国のものと比較して、比較的シンプルな構造を選択しているが、それでもスクリーニング・レジストリーと呼ばれる対象者ごとの検診および診療結果の時系列的データベースの構築なしには運用が不可能なアルゴリズムであるが、わが国では国としてのスクリーニング・レジストリーを持たず、また自治体も十分な準備ができていたとは言い難い。

今後の展望としては、策定した「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」を元に、スクリーニング・レジストリーを構築、あるいは国から全国共通のものを提供されて、要件を満たした自治体から、デザイン・パイロットとして実際に運用できるか、またスクリーニング・レジストリーでの短周期での確認やがん登録との照合にて安全性を確認できる環境で開始し、モニタリングと改善を繰り返して全国展開できるものになりうるかを、逐一がん検診のあり方に関する検討会にて報告しつつ進めることが肝要であり、またそれが他のがん検診の先鞭となり得る。

#### E. 結論

HPV 単独+細胞診トリアージのアルゴリズム候補の中から、わが国の現状を考慮して最もシンプルな形のを提案し、さらに、これまでの知見からそれを対策型検診として実施するための暫定マニュアルを提示し、がん検診のあり方に関する検討会の協議資料とすることが可能であった。今後はデザイン・パイロットにて運用の可否や効果の是非をモニタリングし、がん検診のあり方に関する検討会にて方向性を決定する段階に入る。

#### F. 健康危険情報

本研究は主に文献収集および地方自治体、検査関係企業等を対象にした調査であり、個人への介入は行わないため個人への不利益や危険性は生じない。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

・研究代表者 青木大輔

Morisada T, Aoki D : Assessment and Management of Cervical Cancer Screening Programs in Japan. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 63-73, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_4.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子 : がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌, 31(3):35-41, 2024.

Kawana K, Kobayashi O, Ikeda Y, Yahata H, Iwata T, Satoh T, Akiyama A, Maeda D, Hori-Hirose Y, Uemura Y, Nakayama-Hosoya K, Katoh K, Katoh Y, Nakajima T, Taguchi A, Komatsu A, Asai-Sato M, Tomita N, Kato K, Aoki D, Igimi S, Kawana-Tachikawa A, Schust D : Phase I/II randomized clinical trial of an oral therapeutic vaccine targeting HPV for treatment of CIN2/3. JNCI Cancer Spectr, 7(6):pkad101, 2023.

宮城悦子, 浦部夢子, 青木大輔, 丹生健一 : 【HPVワクチン推進を目指して】 HPV 関連がんの現状と未来. 日本医師会雑誌, 151(12): 2049-2060, 2023.

Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D : Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol, 34(2):e14, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol, 9:e2200222, 2023.

・研究分担者 八重樫伸生

Onuki M, Takahashi F, Iwata T, Nakazawa H, Yahata H, Kanao H, Horie K, Konnai K,

Nio A, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shigeta S, Matsumura N, Yoshida H, Motohara T, Yamazaki H, Nakamura K, Hamanishi J, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Kudaka W, Mori-Uchino M, Kukimoto I, Fujii T, Watanabe Y, Noda K, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study. Cancer Sci, 114(11):4426-4432, 2023.

Okamoto H, Murakami N, Isohashi F, Kasamatsu T, Hasumi Y, Kobayashi H, Ishikawa M, Nakamura M, Nishio T, Igaki H, Ishikura S, Yaegashi N, Mizowaki T, Nishimura Y, Toita T: Plan quality association between dummy run and individual case review in a prospective multi-institutional clinical trial of postoperative cervical cancer patients treated with intensity-modulated radiotherapy: Japan clinical Oncology Group study (JCOG1402). Radiother Oncol, 183:109630, 2023.

Ishikawa M, Shibata T, Kataoka T, Takekuma M, Kobayashi H, Yaegashi N, Satoh T : Gynecologic Cancer Study Group in Japan Clinical Oncology Group : Final analysis of a randomized phase II/III trial of conventional paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab versus dose-dense paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab, in stage IVB, recurrent, or persistent cervical carcinoma (JCOG1311). Int J Gynecol Cancer, 33(5):692-700, 2023.

・研究分担者 藤井多久磨

Fujii T : Diagnosis of Cervical Intraepithelial Neoplasia with Special Reference to Roles of Cervical Cytology and Colposcopy. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 85-97, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_6.

Mitani T, Kukimoto I, Tsukamoto T, Nomura H, Fujii T: A prospective clinical trial of diathermy ablation for patients with high-grade cervical intraepithelial neoplasia from a single institution in Japan. Sci Rep, 14:2632, 2024.

Onuki M, Takahashi F, Iwata T, Nakazawa H, Yahata H, Kanao H, Horie K, Konnai K, Nio A, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Ta

kei Y, Shigeta S, Matsumura N, Yoshida H, Motohara T, Yamazaki H, Nakamura K, Hamanishi J, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Kudaka W, Mori-Uchino M, Kukimoto I, Fujii T, Watanabe Y, Noda K, Yoshikawa H, Yaeashi N, Matsumoto K: MINT Study Group: Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study. *Cancer Sci*, 114(11):4426-4432, 2023.

藤井多久磨: 子宮頸部円錐切除術 合併症予防の対策. *産婦人科の実際*, 72(12): 1194-1201, 2023.

・研究分担者 宮城悦子

Nakagawa S, Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, Miyoshi A, Kimura T, Hirai K, Sekine M, Nakayama T, Kobayashi E, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T: Intentions for catch-up HPV vaccination in Japan: an internet survey. *Int J Clin Oncol*, 28(12): 1667-1679, 2023.

宮城悦子: HPV ワクチンについて HPV ワクチンの効果と安全性について. *母性衛生*, 64(2): 456-460, 2023.

宮城悦子: HPV ワクチンについて HPV と子宮頸がん, HPV ワクチンについて. *母性衛生*, 64(1): 257-262, 2023.

宮城悦子, 浦部夢子, 青木大輔, 丹生健一: 【HPV ワクチン推進を目指して】 HPV 関連がんの現状と未来. *日本医師会雑誌*, 151(12): 2049-2060, 2023.

宮城悦子, 水島大一, 助川明子: 【HPV ワクチン推進を目指して】 HPV ワクチンの有効性-国内外のデータ. *日本医師会雑誌*, 151(12): 2079-2082, 2023.

宮城悦子: 子宮頸がん予防～国内外の最新情報～. *大分県臨床細胞学会誌*, 32: 19-23, 2023.

宮城悦子: 【ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン】 HPV ワクチン外国の状況. *臨床とウイルス*, 51(1): 40-44, 2023.

・研究分担者 中山富雄

Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T: Cancer screening in Japan 2 years after the

COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. *Prev Med Rep*, 39:102649, 2024.

Nakagawa S, Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, Miyoshi A, Kimura T, Hirai K, Sekine M, Nakayama T, Kobayashi E, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T: Intentions for catch-up HPV vaccination in Japan: an internet survey. *Int J Clin Oncol*, 28(12): 1667-1679, 2023.

中山富雄: これまでのがん検診と将来像—科学的評価を中心に. *総合検診*, 50(2): 237-241, 2023.

・研究分担者 齊藤英子

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. *日本がん検診・診断学会誌*, 31(3):35-41, 2024.

・研究分担者 森定 徹

Morisada T, Aoki D: Assessment and Management of Cervical Cancer Screening Programs in Japan. In: Aoki D. (eds) *Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics*. Springer, Singapore, page: 63-73, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_4.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. *日本がん検診・診断学会誌*, 31(3):35-41, 2024.

森定 徹: HPV 検査を導入した子宮頸がん検診を考える. *日本がん検診・診断学会誌*, 30(3):22-26, 2023.

森定 徹: 子宮頸がん HPV 検査の現状と, その問題点. *臨床検査*, 67(3):211-215, 2023.

・研究分担者 高橋宏和

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服する



ための取り組み - 子宮頸がん検診を例に - . 日本がん検診・診断学会誌,31(3):35-41,2024.

Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T : Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. *Prev Med Rep*, 39:102649, 2024.

・研究分担者 雑賀公美子

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定徹, 齊藤英子 : がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に - . 日本がん検診・診断学会誌,31(3):35-41,2024.

・研究分担者 黒川哲司

Hosokawa S, Norimatsu Y, Nishikawa T, Suzuki H, Kurokawa T, Shinagawa A, Yanoh K, Maeda Y, Kobayashi TK, Fulciniti F : Staining Pattern of Alcian Blue in Endometrial Cytology: Utility in Distinguishing Grade 1-Endometrial Endometrioid Carcinoma from Endometrial Glandular Stromal Breakdown. *Journal of Cytology*, 41(2):110-115, 2024.

Taro I, Onuma T, Kurokawa T, Chino Y, Shinagawa A, Yoshida Y: Evaluating Opt-In Vaginal Human Papillomavirus Self-Sampling: Participation Rates and Detection of High-Grade Lesions (CIN2+) among Unscreened Japanese Women Aged 30-39. *Healthcare (Basel)*, 12(5):599, 2024.

Ozawa N, Kurokawa T, Hareyama H, Tanaka H, Satoh M, Metoki H, Suzuki M: Evaluation of the feasibility of human papillomavirus sponge-type self-sampling device at Japanese colposcopy clinics. *J Obstet Gynaecol Res*, 49(2):701-708, 2023.

・研究分担者 上田 豊

Nakagawa S, Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, Miyoshi A, Kimura T, Hirai K, Sekine M, Nakayama T, Kobayashi E, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T : Intentions for catch-up HPV vaccination in Japan: an internet survey. *Int J Clin Oncol*, 28(12): 1667-1679, 2023.

## 2. 学会発表

・研究代表者 青木大輔

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔 : 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋) , 2024/03.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D : Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) , 2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D : Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023) (Seoul), 2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔 ; HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

青木大輔 ; 【基調講演】今後の子宮頸がん検診プログラムの動向とそのマネージメント. 第 32 回日本



婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: 【シンポジウム】 HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割。第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齋藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子: 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文献的検索。第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会(成田), 2023/09.

齋藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木大輔: 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題。第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江), 2023/07.

岡田結生子, 齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み。第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

Nisho H, Morisada T, Kawana K, Nagase S, Iwata T, Yamagami Y, Aoki D: 【国際フォーラム】 Evidence review and current situation of abnormal cancer screening in Japan. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 森定 徹, 青木大輔: 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴。第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋), 2023/06.

青木大輔: 【特別講演】 婦人科のがんについて～予防、早期発見と治療～。赤坂山王メディカルセンター/国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス共催市民公開講座(東京), 2023/05.

齋藤英子, 小田瑞恵, 木口一成, 佐々木 寛, 青木大輔: 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況—チェックリスト充足率からの検討—。第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討。第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

青木大輔: 【招待講演】がん対策と婦人科がん。2023 年岩手産科婦人科学会総会 (盛岡), 2023/04.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Aoki D: Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan : 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

・研究分担者 藤井多久磨

Fujii T, Kawasaki R, Nishio E, Iwata A: Metabolomic profiling of cervical mucus for diagnosis in cervical neoplasia. EUROGIN 2024 International multidisciplinary HPV congress (Sweden) , 2024/03.

藤井多久磨: 患者さんにも病院にも優しいVIO3を用いた円錐切除術。第2回コルポスコピー研修会(主催:日本婦人科腫瘍学会 子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会)(東京), 2024/03.

藤井多久磨: 腺系病変に認められるコルポスコピー所見。第2回コルポスコピー研修会 (主催:日本婦人科腫瘍学会 子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会)(東京), 2024/03.

Fujii T: Current status of cervical cancer in Japan and colposcopy education initiatives in J SGO. I.F.C.P.C (International Federation of Cervical Pathology and Colposcopy) 18th World Congress(Colombia), 2023/11.

藤井多久磨: 【教育講演】コルポスコピー 基礎から応用まで。第62回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

藤井多久磨: 「子宮頸部病理・コルポスコピー」の分野について考える。第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

藤井多久磨: 【会長講演】臨床と研究のはざまで—細胞でワクワクしよう、技術を極め、次世代に伝える—。第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋), 2023/06.

柚木浩良, 杉山宗平, 藤田智洋, 藤井多久磨: 愛知県臨床細胞学会アンケート調査結果報告。第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

杉山宗平, 柚木浩良, 藤田智洋, 藤井多久磨: 婦人科細胞診におけるコミュニケーション問題と医療

安全について. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

藤井多久磨:【特別講演】子宮頸がん検診とHPVワクチンに関する最近の話題 婦人科医から他専門の先生へのメッセージ. 名古屋市3医師会共催HPV学術講演会(Web), 2023/06.

藤井多久磨:産婦人科診療ガイドラインの作成における現状と課題—婦人科外来編—. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

藤井多久磨:【特別講演】子宮頸がん検診とHPVワクチンに関する最近の話題. 愛知県産婦人科医会第2回学術研修会(三河地区)(愛知), 2023/04.

・研究分担者 宮城悦子

宮城悦子:【講演】HPV 関連疾患としての子宮頸がん予防. 第 435 回 ICD 講習会(東京), 2023/12.

宮城悦子: HPV ワクチンの定期接種・キャッチアップ接種の推進に向けて. 第 146 回関東連合産科婦人科学会学術集会(浜松), 2023/11.

宮城悦子:【シンポジウム】子宮頸がん排除に向けて～日本の課題～. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

宮城悦子:子宮頸がん予防の最新情報(プレナリーセッション). 第 65 回神奈川医学会総会・学術大会, 2023/11.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防 2023～日本の立ち位置は?～. 横浜市立大学市民医療講座(横浜), 2023/11.

宮城悦子:【講演】子宮頸がんの発症を予防するワクチン. 国際医療福祉大学大学院 多職種協働市民公開シンポジウム(東京), 2023/10.

宮城悦子:【講演】日本の子宮頸がん予防を考える. 令和 5 年度 職場の健康管理担当者研修会(横浜), 2023/10.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防 2023. 第 576 回医学研修の日(横浜), 2023/09.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防最新情報. 日本大学薬学部講義(船橋), 2023/09.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防最新情報～日本の課題は?～. 市民公開講座 HPV ワクチンのお話(高知), 2023/09.

古野敦子, 助川明子, 鈴木幸雄, 水島大一, 宮城悦子: 2021 年度, 2022 年度医学部新入生の子宮頸がん予防に対する意識調査. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

八木麻未, 上田豊, 池田さやか, 関根正幸, 宮城悦子, 榎本隆之, 木村正: HPV ワクチン積極的勧奨差し控えの弊害解消に必要なキャッチアップ接種率の検証. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

Miyagi E, on behalf of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Breaking News: Drastic Changes in HPV Vaccination Policy in Japan. 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

・研究分担者 中山富雄

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔:【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋), 2024/03.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D: Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei), 2023/12.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄:「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第 82 回日本公衆衛生学会総会(つくば), 2023/11.

宮澤仁, 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 新型コロナウイルス感染症拡大期における、がん検診の精密検査受診への影響の分析. 第 82 回日本公衆衛生学会総会(つくば), 2023/11.

中山富雄:【シンポジウム】がん検診とは何か? 国家的プログラムの要件. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: 【シンポジウム】HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

中山富雄: 【要望講演】子宮頸がん検診に関する最近の動向—海外と日本—. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

・研究分担者 齋藤英子

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔: 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋), 2024/03.

富田圭祐, 齋藤英子, 五十嵐歩惟, 磯前有香, 永吉陽子, 上田和, 桂研一郎: 当院での子宮頸がん検診における要精検者の精検受診率向上のためのシームレス勧奨. 第 38 回日本女性医学学会学術集会(徳島), 2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei), 2023/12.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D: Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei), 2023/12.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D: Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei), 2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D: Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei), 2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023) (Seoul), 2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 森定徹, 青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

齋藤英子: 【シンポジウム】がん検診の評価指標の「可視化プロジェクト」—精検受診率について—. 第 82 回日本公衆衛生学会総会(つくば), 2023/10.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: 【シンポジウム】HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

小田瑞恵, 齋藤英子, 佐々木寛: 【シンポジウム】子宮頸がん検診における HPV 検査の役割 —HPV 検査導入に向けたアルゴリズムの試案—. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齋藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子: 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文献的検索. 第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会(成田), 2023/09.

齋藤英子: 【シンポジウム】職域がん検診はどう変わるか、変えていくか?職域におけるがん検診に関するマニュアルに基づく検診実施機関の精度管理. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会(高崎), 2023/09.

磯前 有香, 齊藤 英子, 五十嵐 歩惟, 桂 研一郎 : 子宮頸がん検診要精検者における確実な精検受診実現のためのワンストップ勧奨. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会(高崎),2023/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木大輔 : 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和 : がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

齊藤英子, 木口一成, 小田瑞恵, 植田政嗣, 佐々木寛 : 検診機関用チェックリスト調査から見える子宮頸がん検診での細胞診精度管理の課題 : 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋) , 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔 : 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋) , 2023/06.

齊藤英子, 小田瑞恵, 木口一成, 佐々木 寛, 青木大輔 : 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況—チェックリスト充足率からの検討—. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Aoki D : Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan : 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

・研究分担者 森定 徹

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔 : 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋) , 2024/03.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D : Role of

Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei) , 2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D : Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Morisada T : Current Status and Issues of Cervical Cancer Screening in Japan. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔 : HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : 【シンポジウム】 HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔 : 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に

影響する可能性がある。第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木大輔: 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第31回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

Nisho H, Morisada T, Kawana K, Nagase S, Iwata T, Yamagami Y, Aoki D : 【国際フォーラム】 Evidence review and current situation of abnormal cancer screening in Japan. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋) , 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋) , 2023/06.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

・研究分担者 高橋宏和

Takahashi H, Machii R : Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening Network (IACCS) 2023 (Tokyo) ,2023/12.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば) , 2023/11.

宮澤仁, 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 新型コロナウイルス感染症拡大期における、がん検診の精密検査受診への影響の分析. 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば) , 2023/11.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影

響する可能性がある。第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木大輔: 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第31回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

Takahashi H, Machii R : Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. International Cancer Screening Network 2023(Turin), 2023/06.

・研究分担者 戸澤晃子

戸澤晃子: 【講演】子宮頸がんの今後の動向と精度管理. 山梨県子宮がん検診従事者講習会, 2024/02.

戸澤晃子: 【シンポジウム】わが国の子宮頸がん検診にHPV検査を導入するメリットとデメリット. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

・研究分担者 雑賀公美子

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔: 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋) , 2024/03.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E , Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei) , 2023/12.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D : Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D : Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 森定徹, 青木大輔 ; HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔 : 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 :【シンポジウム】 HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齋藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子 : 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文献的検索. 第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会(成田), 2023/09.

雑賀公美子 : がん対策としての乳がん検診のあり方について. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会(高崎),2023/09.

齋藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定徹, 青木大輔 : 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江), 2023/07.

岡田結生子, 齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和 : がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 森定徹, 青木大輔 : 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋) , 2023/06.

森定徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Aoki D : Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan : 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

・研究分担者 黒川哲司

黒川哲司 :【シンポジウム】 症状のない ASC-US の検討. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

黒川哲司 :【特別講演】 HPV ワクチンの Topics. 第 36 回日本臨床内科医学会(福岡), 2023/10.

黒川哲司 : (座長)

・「LBC を用いた子宮内膜細胞診の新技術」(シンポジウム) 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋), 2023/06.

・一般演題ポスター 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(松江), 2023/07.

・一般演題 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

・Global Asia Forum , 基礎講座1 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

・研究分担者 上田 豊

上田 豊 :【講演】「今こそ知りたい！子宮頸がん予防」. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 市民公開講座(福岡), 2023/11.

上田 豊 :【講演】「未来の家族との生活のために今、知っておきたい AYA 世代の子宮頸がんの予防と治療」. 畿央祭ウエルカムキャンパス がんカフェー

きらめきー(奈良), 2023/10.

上田 豊:【講演】「20代からできること、男性にもできること、みんなができる子宮頸がん予防の話」。富士通株式会社 健康セミナー(Web), 2023/10.

八木麻未, 上田豊, 池田さやか, 関根正幸, 宮城悦子, 榎本隆之, 木村正: HPV ワクチン積極的勧奨差し控えの弊害解消に必要なキャッチアップ接種率の検証. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

《特許出願》

藤井多久磨

【発明の名称】子宮頸がんおよび／または子宮頸部上皮内腫瘍の検査方法

【国際出願番号】PCT/JP2023/030959

【出願人】 学校法人藤田学園

【発明者】 藤井多久磨、川崎理絵

【出願日】 2023年8月28日

##### 2. 実用新案登録

特になし

##### 3. その他

特になし